

第3回 総合計画審議会 会議録

1 会議名

第3回 総合計画審議会

2 開催日・出席者等

開催日時 令和2年2月13日（木） 午前9時30分から午前11時35分

場所 須坂市役所 本庁舎3階 305会議室

3 出席者

(1) 委員

遠藤 守信 委員、高野 健光 委員、二タ村 朝比古 委員、永井 康彦 委員、
山上 久子 委員、神林 利彦 委員、高橋 洋子 委員、永田 繁江 委員、
竹前 美枝子 委員、川口 千春 委員

（欠席）

土本 俊和 委員、遠藤 守 委員、寺田 克 委員、西原 秀次 委員、春原 博 委員、
本藤 浩史 委員

(2) 幹事

副市長、総務部長、健康福祉部長、市民環境部長、社会共創部長、産業振興部長、
まちづくり推進部長、水道局長、消防長、教育次長、議会事務局長、会計管理者

(3) 事務局

政策推進課長、政策推進課長補佐、政策推進課職員

4 配布資料

説明スライド資料…【資料1】

将来人口推計と目標人口…【資料2】

第六次総合計画 基本構想の検討にあたっての視点共有について…【資料3】

第五次須坂市総合計画 基本構想における「ほんもの」の定義…【資料4】

市長公約における重点的事業等…【資料5】

しあわせ信州創造プラン2.0抜粋（長野地域計画）…【資料6】

5 内容

(1) 開会

村石政策推進課長補佐

定刻になりましたので始めさせていただきます。

今回の進行を務めます村石です。よろしくお願いします。

—本日の欠席委員連絡—

なお、二タ村委員については、昨年で区長の任期は終了しましたが、引き続き本審議会委員をお務め願いたい旨を事務局からお願いしましたところご快諾をいただきました

た。引き続きよろしくお願いします。

以降、次第に沿って進めさせていただきます。

続きまして、遠藤会長よりご挨拶をお願いします。

(2) **会長あいさつ**

遠藤会長

策定を進めている総合計画が須坂市という地域の未来を切り拓く計画となりますよう、各分野や団体等を代表される皆様からの積極的なご意見をお願いしたいと思います。

村石政策推進課長補佐

続きまして次第3の会議事項に入ります。

遠藤守信会長に進行をお願いしたいと存じます。遠藤会長宜しくをお願いします。

(3) **会議事項**

① **基本構想原案（たたき台）の検討について**

遠藤会長

それでは本日の議題に入ります。まず（1）基本構想原案（たたき台）の検討について事務局から説明をお願いします。

副市長

本日はお忙しいところ委員の皆様のご出席に感謝申し上げます。

お配りした資料は市民総合意識調査、策定委員会、若手職員による策定ワーキンググループの検討結果等踏まえ事務局で作成した原案です。

原案を叩き台に忌憚のないご意見をいただきたい。総合計画が市民との共通の羅針盤としてふさわしいものになるよう、言葉の表現よりも要素の部分についてご検討をいただきたいと思います。それでは具体的な内容は事務局で説明をさせていただきます。

政策推進課長

—配布資料について一括説明—

※説明時参照資料【資料1～資料6】

遠藤会長

説明の内容について質疑等ありますでしょうか。

委員

【資料1】の所々に出てくる「一人一人」「一人ひとり」という表現。混在するため、読みやすさの観点から内容の統一をしていただきたい。

遠藤会長

ご提案のとおり、後者に統一して表現いただきたい。

委員

基本構想における将来像について、10年前に策定した基本構想で用いた「ほんもの」という表現を第六次計画においても取り上げる意図は何か。

政策推進課長

「ほんもの」は「地域の宝」や「大切なもの」を表現する言葉として第五次計画策定時から用いてきた。今回の案ではあくまで例示としてお示ししたもので、もう少し発展させた表現のほうがふさわしいということも考えられる。審議会委員の皆様にもご判断

いただきたい。

「ほんもの」の概念は【資料3】にもお示ししているので参考にしていきたい。

会長：

第五次の時は「仮のものでない」「取り繕ったものでない」という意味で「ほんもの」という表現がトレンドでもあった。現在は上辺だけを整えた時代から進化し、成熟した時代に変化しつつある。第六次計画では表現にアレンジを加えていってはどうか。

副市長

市長公約で「ほんもの」という表現を用いているのは第五次計画の取組みを継承していくという意図で用いている。第六次計画での名称や表現は第五次と違った形で表現されても問題はない。

委員

内容は理解。言葉を否定する理由はないが、質的にも変化している時代の中で、もう少し深く言葉の選び方を追求していったほうが良いと思っている。意図は十分に理解できた。

遠藤会長

第五次計画よりも一歩進めたコンセプトで皆様にご検討いただきたい。

委員

【資料1】(p2)の未来への変化とチャンスでSDGsの理念を含めたのは評価できる。ただ、「計画の目的と愛称」でいう「2030」はSDGsの目標年度である2030年度も念頭にあると思うが、果たして市民共通でSDGsの理念が理解に落ちるかどうか。将来像で表現している「幸せの実感」の感じ方も個々で様々である。全般的に言えることだが、文字表現だけでなく内容の伴った分かりやすい構想を作っていくことが重要。

遠藤会長

大切なご指摘。SDGsの理念に沿った内容はもちろん取り組むとして、SDGsの理念とキャッチフレーズとの整合をどう図るかは難しい。今後、委員で知恵を絞りたい。幸せはすなわち「生きがい」。人は「生きがい」を感じ、かつそれが達成された時に人は「幸せ」を感じる。子育ても地域貢献も、健康で生活することも生きがいの一つ。市民がこの生きがいを共通に認識できることが幸せ実感につながる。ぜひ「生きがい」というコンセプトを基本構想のエッセンスに含めて欲しい。

遠藤会長

資料を見ていて気付いたが、【資料1】(p1)における須坂の強みとして表現されている「ベッタウン」という表現。須坂の強みを表現するキーワードとしては「地域のつながり」、「豊かな自然・景観」など上位に位置し、「ベッタウンの利便性」という言葉は重要度的には3番目くらいでいい。資料の表現的なことだが、工夫願いたい。

また、資料に多く用いられている「共創」という言葉について、協力することの大切さや切磋琢磨しあいながら発展的に協力するという意図が欲しい。「共創」よりも「協創」が最適ではないか。そんな意識を委員の皆さんと是非共有したい。

また、事務局説明の中でバックキャスティングでのアプローチという大事な提起があった。10年後の社会を確実にイメージしながら、それを前提にした将来像を考えたい。将来を見据え行政や市民が何をするか、一人ひとりがどんな生き方をするか、このコンセプトをもっと明確に打ち出していきたい。

須坂市は県内でも「農・工・商・観」のバランスが取れたまちである。このまちを維持していくため行政や市民がどう取り組むか、しっかり考えていきたい。

高齢化への対応という視点は随所に出てくるが、「孤立」しても「孤独」にさせない社会を目指すことが大切か。生き方として「孤立」を選択することはやむを得ないが、「孤独」は社会から切り離されることを意味し、社会にとっても損失である。孤独を感じている人は病気になりやすいという統計もある。この須坂市が「孤独にさせない優しい社会」、「絆のある社会」でありたいというコンセプトはぜひ構想に含めていただきたい。

委員

高齢者の観点で「孤独」にさせないことの大切さは会長から説明があったが、他分野でも農業従事者が結婚できていないという事例があるように、高齢者だけでなく様々な場面で社会から「孤独」にさせないという視点が必要と感じた。

遠藤会長

新規就農者の「定住」や「生活サポート」という点についてもぜひ農業施策での課題として捉えていけると良い

委員

「相手があって結婚できる」ことの幸せ実感は大切。出会いの縁もない若者は多い。しっかり施策に含めていくことが大切。

遠藤会長

出会いの縁を創出するために、いわゆる“世話焼きさん”と言われるような地域の絆も必要。この点では、須坂市に昔からある「地域の温かみ」も基本構想のコンセプトに含めていけたらいい。

委員

基本構想や将来像の検討視点として、市民に分かりやすいということは重要。「ほんもの」や「幸せ」という概念は非常に良いと感じる。外国人が歴史や伝統に興味関心を示すように、自分達が忘れたものに気付かせてくれるという面からの大事なキャッチフレーズと考える。

市民が求める個々の要望も大切だが、それを一段階超えたもう少し深い所のベースにあるもので須坂の良さを表現するものとして「幸せ」という言葉は最適ではないかと思う。

一方、「未来共創」という言葉は分かりやすさという点からもメッセージ性という点からも一歩足りない印象。何を意図しているか解説がないと分かりづらい表現よりも、どちらかといえば「活力を生み出す」というような表現が良いのではないか。

委員

市民にとって総合計画というのは認知度が薄い嫌いがある。

将来像案に掲げる「幸せ」の価値観は人によって様々。日本にいてだけで幸せと感じる人もいる。個人的には須坂市はとても安全安心で幸せなまちだと思う。普通に生活できることが幸せである。

委員

将来像では「幸せを実感する」という表現よりも「皆で幸せづくりをする」というようなイメージ捉えたほうが共創というイメージとリンクし一層良いのではないか。

遠藤会長

面白い発想。幸せを皆で創り出していくという点はぜひ共有していきたい視点。

委員

こんな素晴らしい計画を作るのであれば、しっかり市民に浸透させることを考えて欲しい。

「共創」とはいうが、市民に浸透していないのはもったいない。また、第五次計画に取り組んできた成果、新たに生じた課題は何だったのか。時代は刻一刻と進んでいる。今後、団塊の世代が一層の高齢化を迎える。そういう意味でコミュニティの考え方も重要だろう。会長の指摘にもあったが、「孤独」にならないよう地域で「いつでも」「誰でも」関わり合えるコミュニティがあることは重要。そういう場がたくさんあればもっと良い地域になる。地域を潤すコミュニティを今よりもっと充実させたい。「生きがい」という視点もぜひ将来像に盛り込んでいただきたい視点。

また、須坂の各所から見える景色の良さも大きな強み。須坂市は特別な観光地というわけではないが、県境が見え、山が見える、そんな当たり前の強みをうまく生かすことも考えていったらいい。ただ、景観を言葉で打ち出すだけでなく、元々ある良いものを活かすという発想も大切である。

遠藤会長

【資料1】（p1）の市民意見欄に「市民が自然を誇りに感じている」というエッセンスも入れていくのが良いのではないか。

委員

農業分野で使われる「地産地消」と「地消地産」は意味が違う。前者は生産が起点、後者は消費が起点である。後者で表現する自治体は県内でも少ないが、自分達が消費する農産物は地元で作るという観点からも、後者で表現していくのがよいのではないか。

また、【資料1】（p2）で農業の担い手不足が課題として挙げられているが、遊休農地や荒廃地の増加も大きな問題。農業分野にとどまらず、環境問題とも密接に関連するためきちんと考えていきたい視点である。

遠藤会長

ご指摘の点は国土保全という点でも大変重要。遊休農地の解消や国土保全に対する行政の姿勢もしっかり盛り込みたい。地産地消の考え方も重要。子供の頃、地域でとれた美味しいものをどれだけ食べるか。子供の頃に美味しいと思ったものは、将来も好んで食べるようになる。須坂産の農産物を好む子供が増えるよう、このコンセプトはぜひ盛り込んで行きたい。

委員

山上委員からもご提起があったが、「自然の豊かさ」は市民が忘れがちな視点。自然を感じ幸せを感じるという考え方も大切。福祉の現場にいと、そういう幸せを実感できる場面は少ない。須坂市は地域の絆という面でおせっかいが多いが、これから先、高齢者や孤独者が更に増加する中、ふらっと寄れる場所や機会の提供、コミュニティが多くあったら豊かな地域が実現できるのではないか。高齢者が増えていく中に地域の子どもたちも巻き込んでいけるといい。子供達の声を聴くと高齢者も元気になれる。福祉を中心にした他分野との協働ということも今後重要になってくると思う。

遠藤会長

おせっかい焼きは少なくなりつつある。「絆」の豊かさという視点はぜひ相合計画の中で大切にしてほしい。永田委員からご指摘のあったように、老若男女の交流が活発になり、元気な高齢者が活躍できること、皆が集える場所やコミュニティを増やすというコンセプトもほしい。これは必ずしもお金のかかるハード整備ということでも実現できるだろうと思っている。

委員

旭ヶ丘ふれあいプラザで行われている「すこやかふれあい活動」というのも高齢者と子供たちの集いが一例。高齢者から昔の遊びを教えてもらうことや、歌を披露しあうなど、相互交流がされている。そういった世代間の相互交流が各地域で多く展開されていくことが大切。

委員

どこの地域もそうだと思うが、急に高齢者が増えてきた印象がある。そういう中、高甫地域でのサロンも良いと思う事例。増加する高齢者の交流の場として重要だと思っている。

遠藤会長

交流は「生きがい」や「心の健康」にもつながる。これは都会では実現できず、須坂のまちならではの魅力。

【資料1】(p1)で市民意見として「老後を安心して暮らせるまち」とあるが、「児老創生」や「児童や高齢者が相互に集える」というような表現が良いか。「シニアから青年、そして子供が共に集えるまち（つながりあえる社会）」そんな方向性も基本構想では須坂市の特色や強みを捉えた良いキャッチフレーズになり得るのではないかな。

委員

コンパクトにまちがまとまり、互いの顔が近くに見えるのは須坂の良さであり、しっかり強みとして捉えていきたい。また、構想の策定にあたって「若い人の声を聴くこと」や「賑わいの創出（人で賑わう地域づくり）」をぜひ実現してほしいと願っている。

遠藤会長

計画は作るだけでなく浸透が重要。この点も計画策定と同時に考えていく必要がある。

委員

須坂IC周辺で開発が予定されている商業施設にも大いに期待している。須坂市は比較的、地盤が地震に強い。どの地域からも景色がいい。ここに商業施設の要素が加わればなお良いまちになる。移住者や外部の人に対し、これらの須坂に住まう魅力を多いにアピールできる計画であってほしい。若い人をたくさん呼べるような地域になってほしい。

遠藤会長

市民がはっと気付き、はっと将来をイメージし、皆が明るい未来を描き、そして夢をもてる、そんな構想にしていきたい。コンセプトとして「希望の持てる地域」ということを将来構想としてしっかりと盛り込んでいくことは重要な視点である。

委員

これから10年先を考えると、何とんでも人口減少対策は喫緊の課題。須坂の強みを活かすとすれば、就農を目的とした移住支援は効果的であるといえる。就農者に限らず移住施策を中心とした人口増加施策にはしっかり取り組むべきである。

もう一点、【資料1】(p2)、経常収支比率の高さや財政の硬直化という課題が挙げられているが数値をお示し願いたい。

副市長

経常収支比率について須坂は95%と極めて高い。19市中では1、2番に高く、福祉の充実などの反面、投資的経費に回せる予算が少ない。今後の須坂市の課題としても認識している。

委員

【資料1】(p4)の「基本目標1」について、非常に重要なテーマだが抽象的で難しいテーマだと思うがいかがか。

また、須坂のほんものの果物の味については多くの人が認めるところである。こんないい須坂のブランドを継承していくという点からも農業後継者対策にしっかり取り組むことは重要。

委員

SDGsでは「誰一人取り残さない」ではなく「誰一人置き去りにしない」が正しい表現ではないか。

政策推進課長

人権分野の重要性については【資料3】(p4)にもお示ししているとおり、言葉の表現の仕方は別として、SDGsへの共感を市の決意として示したものとご理解いただきたい。言葉の表現は別途調整したい。

遠藤会長

女性活躍やジェンダー平等を計画に盛り込むことは重要な意義がある。

遠藤会長

「基本目標2」の表現案は「子ども・若者が育ち」という放置的な表現でなく、「子ども・若者を育み」と表現をぜひ変えていただきたい。社会が若者の育成に責任を持つことが大切である。

委員

国全体の成長が期待できない中、どこの自治体も「頭は使っても金を使わない」という発想は大切。市民も行政に過度に期待しすぎてはいけない。スピード感もある民間を積極的に活用する仕組みをぜひ盛り込んでほしい。民間活用によるコスト削減は今後行政が力を入れて取り組むべき分野の一つである。インター周辺開発も上手な民間活用の例。特区活用なども含め大いに取り組んでいただきたい。

遠藤会長

行政コストの削減、スリム化は一つの大切なコンセプト。基本構想を考える上での方向性として持っておきたい視点。

委員

【資料1】(p4)の「基本目標6」でいう「果樹栽培を「稼げる産業」にする」という表現だが、「付加価値の高い産業にする」という表現のほうが適しているのではないのか。

遠藤会長

付加価値産業への転換という表現は重要。フルーツをドライフルーツにして価値を活かすなども事例の一つだが、付加価値創出という点の重要性を加味し表現を工夫したい。

委員

【資料1】(p4)「基本目標4」でいう、「安心の基盤となる地域のつながりを環境変化に合わせてリ・デザインする」という表現について、今回の災害の教訓からすると「行政と自治組織の連携」という表現のほうが適切ではないか。

遠藤会長

災害に備えるための行政と自治組織との連携強化、強靱な自治組織づくりという視点はぜひ盛り込んでいくことは重要。

遠藤会長

本日の審議会では各委員から多くの意見をいただき感謝。本日出された意見を踏まえ、今後さらに案を深め、良い形に練り直していきたい。

「その他」として事務局から何かあるか。

副市長

「基本目標1」に掲げる平等もそうだが、SDGsへの理念共感の姿勢は全分野に共通する視点として大切にしていきたい。高齢者活躍の話もあったが高齢者の定義もどうあるべきか検討していく必要がある。農業を主要産業とする須坂市においては地産多消の概念も盛り込んで行きたい視点。また、具体的な言葉として表現されていない観光の部分もしっかり含めていきたい。

人口減少対策も極めて重要。インター周辺に予定している大規模開発もその一助になると見ている。本日お示ししている人口推計には盛り込めていないが、大規模開発がもたらす良い影響も含め、夢の持てるような計画にしていくことも重要。インター周辺開発について、須坂市は開発事業者を支援していく立場。現時点ではルートインとイオンモールが手を挙げており、雇用の増加や地域活性化が期待されているところである。

委員からもご指摘のあったとおり、総合計画は市民も含めみんなで将来に向かって取り組む視点が含まれることが大切。将来像としては過去のものを引き継ぐということだけでなく、将来に向かって進化させるという視点を含め、さらに検討する必要がある。3つのチャレンジ指針についてあまり提起されなかったが、もう少し案を深めていきたい。

皆様からいただいた視点はできるだけ計画に反映していく。そして、「信頼される行財政」を実現していくという点からも計画を作る段階で市民にしっかり内容を浸透させていく取り組みも検討してまいりたい。

遠藤会長

会議内容については以上。進行を事務局へお戻しする。

政策推進課長補佐

欠席委員の意見把握は別途事務局にて行い、それらも含めて議事録を調製し、皆様にご確認いただく。

次回は3月24日(火)15時00分からの開催を予定しています。今回に引き続き基本構想案について検討いただく予定です。

これをもちまして、第3回総合計画審議会を終了させていただきます。

長時間にわたりありがとうございました。

以上